

日本製造業は人材採用の多様化に挑む

IMC
代表取締役 社長

並木 俊一郎氏

(なみき しゅんいちろう)

社員の夢をカタチに表現する

～ニューヨークで出会った日本人学生～

Company Profile

IMC株式会社

本社所在地：茨城県古河市東山田2635-1
TEL:0280-78-1710 FAX:0280-78-2373

事業内容：精密板金及び精密製缶加工、機械加工や各種表面処理も含む製品の製造販売

エミダス会社情報：<http://www.nc-net.or.jp/emidas/gaiyou.php?68975>



ヒデマイスターは現場の若返りとなった



NYのヒルトンホテルでの面接風景

人事施策が現場を強くする

茨城県古河市のIMC株式会社。薄物の精密板金加工技術と厚物の製缶加工技術を得意とする同社だが、代表取締役の並木俊一郎氏は昨年5月にニューヨークでの採用活動にチャレンジした。中小製造業ではなかなか珍しい取り組みである。

メーカー出身の並木氏は人材施策に対して非常に熱い。入社以来、一貫して社員教育や人事システムなどの「人づくり」に注力した。「長年に渡り蓄積された職人達の技術があるのですが、一方で組織の硬直化という課題がありました。それを経営課題として強く意識し、時間をかけてリーダーを育成しました。彼らに権限委譲をし、組織化を進めたのです」と並木氏。

この課題を解決するために並木氏が立ち上げた施策が「ヒデマイスター人事マネジメントシステム」という独自の人材育成システムだ。独自の総合人事処遇制度と従業員が各種研修やOJT、自己啓発の推進をおこなうための環境を仕組みとした。いまでは「ヒデマイスター」を構築した当時に入社した社員が、現場の中核を担う人材へと成長をとげようになった。

新規事業とマーケティング人材

こうして、製造現場の強化を人事施策面から追求してきた並木氏だが、2007年に新規事業として自社製品の製造・販売に乗り出した。自社製品への取り組みに対しては強い想いがあったが、特に並木氏にとって大きかったのは自社製品を製造、販売することで従業員に本質的な仕事の誇りを持って欲

しいという感情であった。「当社では、一次部品供給会社として世界一の部品を作っています。何より、ものづくりに対して、従業員一人ひとりが誇りを持っているのです。ただ、製品として表舞台にでてこない限り、どうしても一歩下がってみたいということがもったいないなと感じていました」

そうして、初めは並木氏自身でマーケティングを進め、「洋菓子のように意匠性に富んだ食パンの金型事業」という新たな事業領域を見つけた。しかし、それ以降は従業員に任せ、パートナーとして事業を立ち上げる人材の必要性を感じていた。そこで並木氏はニューヨークでの日本人留学生の採用セミナーへの参加を決めたのだった。

“ニューヨーク”という選択肢

ニューヨークでの採用セミナー参加を決めたのにはいくつか理由がある。一つは日本の新卒採用市場がバブル期を越える高騰振りを見せており、「海外の日本人採用の方が新卒採用市場として優良」という判断があった。また、アメリカの大学は日本に比べて単位取得が厳しく、即戦力として活躍できる意識の高い学生が多いという話を前からきいていた。新規事業には専門知識以外に強いバイタリティが求められると考えたのだ。実際にニューヨークのヒルトンホテルに集まった学生は意識の高い人材が多かった。企業見学が中心の日本の採用セミナーとは異なり、その当日に「内定」まで出すのが米国での採用セミナー。そのため、学生との会話にも必然的に熱がこもる。そして、1人の学生との面談は60分を超えることも稀でない。熱心な

学生の中には「パンの金型の事業を手伝って欲しい」と話をすると、その日のうちにニューヨークで流行しているパン屋を調べ上げ、翌日案内してくれるといったエピソードもあったという。こうした学生の質の固さに並木氏は強く関心をしたという。彼らに「寄らば大樹の陰」などという意識はない。経営者である並木氏と「パートナー」という意識で面談に望んでくる。そのため、提案も具体的であり、面白みがあった。

世界からみた“日本製造業”

さらに、「日本の製造業はニューヨークの留学生に“通りが良い」という事実が採用の後押しをした」と並木氏は言う。確かに、ニューヨークのマンハッタンにはトヨタやホンダの自動車店が頻りに走っており、ソニーやキャノンの家電が電気店の店頭で並ぶ。日本が経済大国である理由として製造業を語ることは、米国に住む留学生にとって金融業やサービス業より業界として理解が得やすいという追い風があった。

最終的に良縁があり、米国の大学でマーケティングを専攻していた優秀な学生を1名採用する事ができた。今では昼間は新規事業とマネジメント、午後は板金修行と新人ながら「夢とやりがい」を持って働いている。並木氏は「ニューヨークで学んだのは自分。学生から日本製造業の可能性教えられ、新たな挑戦への意欲が湧いた。」という。人材採用への挑戦は新たな可能性との出会いであり、並木氏は見事にそれを勝ち得たのだろう。